

目 次

特集 委員長対談

「これからの中高専を語る」	2・3
シリーズ 研究室訪問	4
シリーズ 人物 いま	5
特集 高専への思いをこめて	6・7
専攻科 ポスターセッション	8・9
冬季球技大会	10
九州地区高専ラグビー大会	10
シリーズ クラブ紹介	11

留学生送別会	12
寮生送別会	12
英検・工業英検・漢字検定合格者	13
岱明寮だより	14
新学生会	15
体育系クラブリーダー研修	15
建築設計競技・吹奏楽部定期演奏会	16
編集後記	16

※本文中に於いて、学生氏名の前にある英数字等は、所属クラスを表します。

数字は学年、英字は学科(M:機械工学科、E:電気工学科、I:電子情報工学科、C:物質工学科、A:建築学科、専:専攻科)です。

全国の高専では、独立行政法人化(独法化)問題や日本技術者教育認定機構(JABEE)の受審問題が検討されています。また、これらの問題を検討しているときに必ず出てくるキーワードがファカルティディベロップメント(FD)です。ここに高専ではあまり耳慣れなかつたキーワードが3つ出てきましたが、それぞれにたいへんお詳しい先生方にお集まりいただき、これらのキーワードがこれからの有明高専にどう関係していくのかについて語っていただきました。

宮川 有明高専では、JABEE委員会、FD委員会、独法化対応ワーキンググループが設置されております。本日は、それをおられてる山下俊雄先生、大山司朗先生、吉田正道先生に、これらが高専とどう関係していくのかについて話していただきたいと思います。まず、新しい3つのキーワードについて説明していただけませんでしょうか。

山下 JABEEとは日本技術者教育認定機構のことを言います。JABEEは国際的に通用する認定基準を定め、それに基づいて技術者教育プログラムの認定審査を行い、認定の合否を決定します。教育プログラムとは、カリキュラムのみならず、教育方法や成績の評価方法、教育環境・設備、教員の構成等を含む全教育システムのことです。教育プログラムが認められると、専攻科修了生には国際的技術者としての技術士の一次試験が免除されます。したがって、自信をもって社会に出ていけると思います。

宮川 JABEEの一次試験免除の対象になるためには専攻科を修了する必要がありますが、5年を卒業した人に対してはどうでしょうか。

山下 企業がどう見るかだと思いますが、就職に際しては一般に認定された高専の学生のほうが有利だと思います。一度社会に出て専攻科に戻ってきて資格を得ることもできます。

大山 FDは、教員の授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みで、大学とか高専の教員の資質の向上を目指したもので、教員の教育力がアップするように活動する委員会です。もちろん、学生に学力や実力と同時に倫理観なども身につくような人間教育を目指しています。

吉田 独法化は国の政策で、これまで国の行政機関の一つとして画一的な決まりの中にあった高等教育機関(国立大学や国立高専など)をそれぞれ独立させ、各大学や高専の個性を發揮して、自分たちで決めた計画に向かって努力し、活き活きとした学校にしていきましょうという取り組みです。高専の場合は、全国55国立高専がまとめて一つの法人として独立することにな

るようです。

独立行政法人通則法にしたがうと中期目標と中期計画をつくらなければなりません。中期目標は文部科学大臣、中期計画は法人が定めることになりますが、実際には各高専の案を積み上げるということです。今まででは、教育・研究についてだけ考えておけばよかつたのですが、法人になると私立学校のように学校経営の面も自分たちでやることになり、自己収入拡大などの経営努力に対して報奨が与えられるようになります。また、中期目標と中期計画の期間は5年間で、これらの達成度に対して評価されることになります。第三者評価の結果に基づき資源配分が決まりますので、競争的環境が醸成されることになります。独法化によって高専の活性化と教育・研究の高度化を図るというのがねらいです。

宮川 それぞれがこれからの高専において極めて重要なことがわかりました。それでは、現在までの活動状況についてお話ししてください。

山下 本校では教育理念は掲げていますが、これに沿った形で具体的な教育目標がまとめられていました。そこで、これまでの有明高専の自己点検書や学校要覧等に個々に書いてある教育目標を調べ、JABEEの教育目標に合致しているかどうかチェックして、9つの教育目標にまとめました。また、教育改善のためにどういう委員会が必要かを検討し、FD委員会の設置を提言しました。さらに、学校の教育設備、施設面等のチェックを行い、これらがJABEEに求められている基準にほぼ達していることがわかりました。最も大きな問題は、工学(融合複合・新領域)関連分野で申請することになったことです。有明高専は5学科3専攻で、これらの分野を一つにまとめて工学分野で申請することはたいへん難しいことです。現在実施されているカリキュラムで、この分野の教育プログラムをつくるなければならないことに頭を悩まされました。今年の4月には、学生にJABEEを受審することを伝える必要があります。

大山 司朗 先生



宮川 FD委員会の活動につ

山下 俊雄 先生



いて教えてください。

大山 教員は教育に一生懸命取り組むと同時に教育テクニックの向上にも努めなければなりません。そこでまず授業評価アンケートで学生の評価が高かつた先生方に、教育・授業に臨む姿勢等について語っていただき、これを全教員に紹介し、少しでも先生方の教育に対する姿勢・意識の向上の手助けになればと実施しました。また先生方の教育、授業に対する評価が学生からの授業評価アンケートだけで十分かという問題もありますので多方面からの評価も検討しております。

宮川 独立行政法人についてはどうでしょうか。

吉田 独法化そのものが高専にとってどのようなものになるのか不鮮明なところがあるのですが、いずれにしろ有明高専の中期目標・中期計画を出す必要があります。



吉田 正道 先生

ます。15年の6月に正式に出さなくてはならないので、1月末に中間報告書を出したところです。5年間で、本校がどのような目標の基にどのような計画でやるのか、教育、研究、業務から運営経営まで、もちろんFDもJABEEも含んでいますが、独自に取り組ん

で、教職員の考えをまとめています。

宮川 わが国では、少子化、高齢化がきて、教育改革、グローバル化、世界水準といろいろなものが出てきています。今まで高等教育機関は言いたいことを言って、一方的やり方で通用していました。しかし、大学への全入時代が来ると高等教育機関はおおきく変化します。今までのやり方ではやって行けないので、教育力や教育技術を上げる必要があります。わかりやすく興味をひかせるような授業をしなくてはいけないと思います。私は、学生に目標をもたせることが重要ではないかと考えていますが、先生方の立場で今後こういうことが大事になるのではないかという点、感じられていること、学生や教職員に対してこうしてほしい点等があれば自由に話していただけませんか。

山下 私が学生の頃の大学の授業を考えると、えらい先生がいろいろと教えてくれるのですが、何を教えているかよくわからなかつた授業も結構あったように思います。JABEEは、何を教えたかではなく、学生が何をどれだけマスターして卒業したのか、その到達度で教育の成果を評価すると言っています。その考え方は正しいと思いますから、私たち教員は研究能力だけでなく教育力を高めることも重要だと思います。ですからFD委員会をつくってもらったのは非常にいいことだと思っています。これからは教員も学生も意識改革が必要で、教員は教え方をもっと勉強しなければならないし、学生もただ習って試験前に勉強するだけではありません。習ったことを自分のものにして、実力をつけて卒業していかなければなりません。

大山 FDとしては授業のやり方ということにとらわ

れますが、目的には授業だけでなく教育力を上げるねらいがあります。クラブ活動やクラス運営などにおいて学生を引っ張っていく広い意味での教育力も要求されているのです。学生から信頼を得られるような教育が望ましいと思います。

宮川 最近コーチ力についての本を読みました。いいコーチは良い選手を育てると言いますが、ただ単に技術を教えるだけでなく、その背景に人間的触れ合いや信頼関係があるのです。授業が上手いだけでは授業評価も上がらないと思います。学生とどのように接しているかが評価に影響してくると思います。

大山 授業評価の良かった先生からのコメントでも、自分は授業ではいい授業をしているつもりはないが、授業外で学生と接していることが授業評価を高めたのではないかと思う、という意見もありました。授業外での触れ合いも重要なと思います。授業のテクニックもそうですが、ほんとうに学生のためを考えているかどうかということも授業評価に反映しているようです。

吉田 FD委員会を充実させて、それを各教官に還元することは中期計画にも入れています。しかしながら、独法化されるとすべての教員が教育に専念するということができなくなります。今まで教育も研究も携わりなさいということでしたが、これからは、多様化が進みます。教育分野で活躍する教員、研究分野で活躍する教員というようにそれぞれの先生の能力を活かしながら活躍していただくことになるのではと思います。各先生の個性を生かして、大学とは異なる技術者教育を目指すとともに、際立った存在感があり、在校生や卒業生が誇りを持てる学校になるよう努力を続けなければならないと思います。

山下 JABEEの仕事をやっていて、教育面ではむしろ高専の方がリードしているように思いました。JABEEの審査員の方が高専の教育システムはよいと評価されていた、と聞いたこともあります。高専の教育制度の良さを再認識できて良かったと思いました。

宮川 高専は15歳から20歳までの5年間一貫教育ができるのでやりがいがあります。高専だからできることができます。勉強もできるけどクラブもして、人間に豊かになり、リーダーシップも養われていると思います。大学も高校も真似のできないものが展開できているのではないでしょうか。中にいると悪いところばかり見えて、よいところがなかなか見え難いのですが、中学校の先生からも企業からも評価されているので、自信をもっていいと思います。今後も改革を続けて、個性が輝く有明高専を目指して、さらに発展していくようにみんなでがんばりましょう。本日はお忙しい中、貴重な時間をいただきありがとうございました。

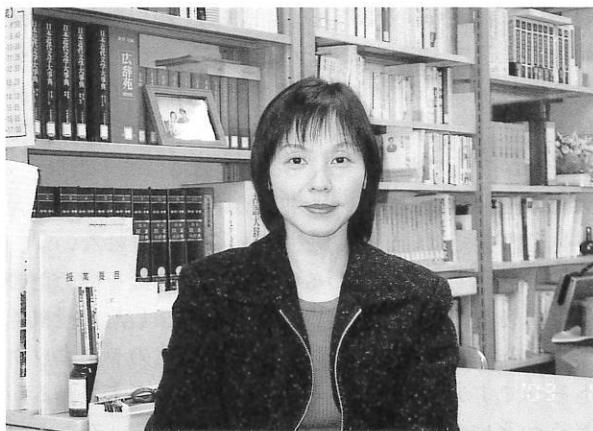


聞き手 宮川 英明 先生

研究室訪問



最近、博士の学位を取得されたお二人の先生の研究室を訪問し、お話を聞きました。



岩本晃代先生(一般教育科・国語)



坪根弘明先生(機械工学科)

【岩本晃代先生】先生の研究テーマと博士論文について教えてください。

研究テーマは近現代の文学で、詩が中心です。大学院時代から阿蘇出身の詩人蔵原伸二郎について研究を続けて、平成10年に『蔵原伸二郎研究』という著書を刊行しました。学生の中には授業で取り上げた彼の詩「五月の雉」を覚えている人がいるかも知れませんね。その少し前から彼と同じ四季派詩人の丸山薫にも関心を持っていて、広い視野で詩史をとらえなおしてみようと思い、博士論文の題を「昭和詩の抒情——〈四季派〉・丸山薫を中心に——」としました。

【岩本晃代先生】詩の研究を始めたきっかけは?

修士課程の時の指導教官の「詩をやってみなさい」という一言でした。それまで樋口一葉を研究していたので、すすめられたときは正直言って本当に困りました。「詩は苦手」という意識が強かったからです。でも、はじめてみると面白くなって、今ではとてもよかったです。私の適性にあわせてテーマを与え、興味を持たせる指導をしてくださった先生に深く感謝しています。そして私自身もそんな先生を目指したいと思っています。

【岩本晃代先生】高専の学生へ一言お願いします。

やはり若いうちは「苦手」意識にとらわれないことが大切だと思います。そしてどんな分野にも関心を持って積極的に取り組んでみることも。私は理系科目をもっと勉強しておけばよかったと反省しています。明快で説得力のある文章を書くためには、論理的な思考力が必要だからです。学生のみなさんも、今のうちにしっかりとさまざまな分野の本を読んでおいてくださいね。

【坪根弘明先生】先生の研究テーマを教えてください。

現在は「気液二相流の特性」と「磁性流体の応用」の二本立てで研究を行っています。まず、気液二相流とは沸騰を伴うような機器やプラントで生じる現象で、気体と液体が混ざっている流れのことです。この研究の応用例としては原子力発電が挙げられ、気液二相流のことを詳しく知っておかないと、効率の良い発電をすることができません。次に、磁性流体とは磁石に引っ付く特性を持つ液体のことです。これはNASAで開発された新機能性流体で、当初はロケットの燃料に使う予定だったということです。現在は、シール剤やスピーカなどに利用されています。

【坪根弘明先生】この研究を始めたきっかけは?

私が大学生だったころ、大学4年での卒業研究を行う研究室選びの方法はジャンケンでした。“追試を受けなければ献血をして来い”と熱く語っていた流体工学の先生の研究室に行きたかったのですが、希望者が定員よりも多くジャンケンで決めることになりました。もちろん、今こうして流体の研究に携わっているということは、そのときの大勝負に勝ったということです。結局、研究が好きでそのまま大学院まで進み、現在に至っています。

【坪根弘明先生】今後の研究の展望について、また学生にも一言お願いします。

研究の展望ではありませんが、将来はこの研究なら有明高専の“あの先生”と言われるようになりたいという野望?を持っています。すごく特殊な研究でもいいので、何か一つ世界に誇れるような研究に取り組みたいですね。学生の皆さんも小さくてもいいから何か夢に向かって頑張ってほしいものです。

(聞き手 村田 和穂 先生)

人物 いま

少田一介



一般教育科 河村 豊實 先生

○20年間での1番の思い出……大学に20年間、その後高専に勤めて10年間が経ちました。この20年間の一番の思い出は、有明高専に転任して来たことです。これは何かの縁であり、また、私の人生のターニングポイントであると思いました。

○10年前と今について……学生は年を取りません。1年生はいつも16歳ですが、私は10歳も年を取りました。また、学生は毎年変わっていますが、私自身は10年前とほとんど変わっていません。ただし、授業での学生への接し方が「理想探求」型から「現実受容」型になりました。

○モットー……「自然に生きる」。自然とは、人間社会の倫理・道徳に(時には政治・経済的にも)かなっているという意味で、人生での各ケースに応じて在り方を探求しながら環境に適応して生きることです。

○学生諸君に一言……学問は、知識だけでなく、それを実践することで身に付きます。教えてもらうだけでなく自分で考えることが大切です。



建築学科 上原 修一 先生

○20年間での1番の思い出……滞米1年で、どこにいても地球の上だと悟ったこと。阪神・淡路大震災の調査で、構造技術者の使命の重さを感じたこと。さらに、WTCビルの崩壊では、壊れない構造物なんてあり得ず、問題はそれを使う人間の側にあること。そして、最近では専攻科一期生が学会で発表したことが思い出です。

○モットー……元教授棚町先生から授かったのですが、"Don't teach your students engineering. Teach them to be engineers." を今、座右に記しています。萩尾坂26号にあったM2河内山さんの、「モノはうそをつかない」、「何かを変えれば何かが起こる」もいいなと感じています。

○学生諸君に一言……あいさつをしよう。ごみを拾おう。身なりを省みよう。残念ながら、有明高専を訪れる多くの人から服装の乱れを指摘されます。特に3年以下が目立ちます。

○現在の研究……コンクリートに関することです。今後は研究者としての残りの時間をにらみつつ、社会の役に立ち、かつ挑戦的な問題にも目を向けてゆきたいと思います。



「感 謝」 会計課出納係 堀江久仁代 主任

公務員としての第一歩は、昭和56年「長崎大学医学部付属病院・医療情報センター」というところからでした。広い電算室に、今では見ることのない大きい「磁気ディスク」と「磁気テープ」が何本も回っているところで、当時の私は大変な所へ来てしまったと不安になったのを覚えています。また、故郷を離れて一人暮らすこと

の淋しさを知り、それまでは強く意識することのなかった両親の愛情や故郷のぬくもりを知ったのもこの頃でした。その長崎も11年後、高専への転勤が決まり離れることになったときには、長崎で得た友人や電算室の方との別れや長崎の街との別れが、故郷を離れたとき以上に辛かったのは自分でも驚きました。平成4年、地の利とはこのことかと思うほど、懐かしい方言の飛び交うぬくもりのある高専に赴任しました。これまで、ずっと高専の人間であったのではないかと思うほど、のびのびと息のできる自分を感じ、驚きました。

長崎大学と有明高専でそれぞれ10年という同じ年月を過ごし、出逢いと別れが数多くありました。得たものはそれ以上でした。この度、永年勤続の表彰を受けましたが、たくさんの方に支えられてここまで来ることができました。長崎大学と有明高専で出逢えた全ての方々に「感謝」、そして両親と家族に心から「感謝」というのが、今の私の素直な気持ちです。

高専への思いをこめて

卒業を前に卒業研究等で忙しい中、M科の上田茂樹君、E科の坂本政徳君、I科の中島朋子さん、C科の池田和寛君、A科の松瀬浩志君に集まつていただき、有明高専への熱い思いを語つていただきました。

氷室 卒業研究の追い込みで忙しい時期に集まつていただき、たいへん恐縮しております。さて、上田君は学科団長と水泳部の部長を経験されてますが、振り返ってみてどうでしたか。印象に残っていることやがんばったことなど話してください。



聞き手 氷室 昭三 先生

印象に残っていること、がんばったことは、5年での高専祭もそうですがやはり体育祭です。また、九州地区高専体育大会で1年から5年まで優勝し続けたことも印象に残っています。

氷室 上田君は只今5連覇中と聞いております。坂本君は学生会長を務められましたが、有明高専全体を通して学んだことなど話してください。

坂本 やはり、最初に学んだのは上下関係ですね。上からいろいろ教わりますし、年々上になっていけば、後輩に教えてあげたいと思います。そこで社会に出ていくための基礎ができるんじゃないでしょうか？残念なことは、自分達が作り上げている学校行事などに積極的じゃない人がいたことです。それぞれの行事を立派なものに作り上げるのは自分達ですから、学生としてもう少し自覚が欲しいと思います。学生会としてがんばったのは、やはり合同企画じゃないでしょうか？九州の他高専との協力の下、何かをやり遂げようがんばりましたし、これからもぜひがんばってほしいところですね。今はボランティア活動をしているみたいですが、学生会役員でない人もできれば参加していただきたいですね。

氷室 中島さんは、留学生のチューターをされてきましたが、振り返ってみてどうでしたか。

中島 私にとってチューターをしたことは大きな経験になりました。チューターをすることで、普段何気なく使っている日本語の意味

を説明することの難しさや、やっぱり日本語っていいなということをあらためて感じました。また、留学生をお正月に家に呼んで一緒に着物を着たり、お茶をたてたり、また逆にマレーシアの料理を作つもらつたりと、家族ぐるみで付き合えたことは、お互いの文化を肌で感じる良い機会になったと思います。すぐに辞書を引く癖も付きましたし。

氷室 有明高専で一番印象に残ったことは何ですか。

中島 行事類はもちろん面白かったですが、やっぱり勉強ですね。ただ漠然と情報系の勉強がしたいと思って入学したんですが、学年が上がっていくにつれて、専門教科が増えてきて「そう、こんなのを勉強したかったんだよ！」とワクワクしたのを覚えています。もちろん嫌いな教科もありましたけどね。

氷室 池田君はバドミントンの部長を務めてこられましたが、高専生活全体を通して感じたことなど話してください。

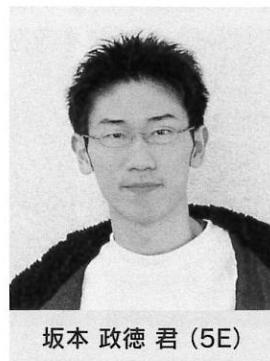


池田 和寛 君 (5C)

池田 一皮剥けたって感じです。部活を5年間続け、何事もすぐに諦めがちだった僕に、根性がプラスされました。今になって考えると、部活が僕の人生に与えた影響は想像できないほど大きなものでした。この僕が、フルマラソンを2回完走したんですよ。高専生活で内面的にも大きな成長を遂げました。高専祭のお化け屋敷を成功させたのは、いい思い出です。前日の夕方に全くできていなくて、かなり焦りました。みんなの協力でその夜に完璧に仕上がったのが奇跡でした。

氷室 松瀬君は編入生として有明高専に入学されましたか、有明高専はどうでしたか。

松瀬 ここに来てみての第一印象としては田舎だなと思いました。でも、勉強する環境としては緑も多く、周りは静かで良かったんじゃないかなと思いました。がんばったことと言われても、他の同期の編入生は高専大会等でがんばっていたけど、ほんとうに僕自身これといって誇れるようなことがないですね。寮生活は、ほんとうに楽しかったですよ。先輩後輩の関係とか学校だけでは、行事やクラブをやっていないと浅いままですけど、寮では一日中だれかとかかわって生活していたので、面白かったし、もし一人暮らししていたら、最初のうち、夜とか泣いてたと思います。それと



坂本 政徳 君 (5E)

生活は楽でした。食事もお風呂もあるから自分では洗濯や掃除をしてればよかったです、不便だったのは門限だけでした。

氷室 次に進路について就職先や動機などを話していただけませんか。

上田 マツダE&Tに就職します。動機は、私は中学校の頃から車に興味があり、将来車関連の会社に就職したいと思い、有明高専に入學し、そして募集がきていたので決めました。さらにこの会社は、一般向けの自動車をつくっているのではなく、レーシングカーやショーカー、福祉車両をつくっており、そのような分野に特に興味があったため選びました。

坂本 森永乳業に決まりました。僕、結構、就職試験落ちたんですよ。そこに一流企業の募集がきてて、こりや受けなきゃ！と。しかも、卒研の内容を生かせる職場になるかも知れないとの期待もあります。仕事の内容は、制御、管理関係の仕事になるんじゃないかなと思います。

中島 地元大牟田のネットワーク会社(有明ねつとこむ)に勤めます。私は、地元で働きたかったんですよ。それで、先生に紹介してもらって会社訪問をして、いろいろお話を伺っていたら「地元にはネットワークエンジニアがあまりいないんだ」という話しになつて、それなら私が！ということになりました。

池田 進路はここの中攻科に進学します。中攻科って授業料が安いってメリットがあるでしょう。小学校よりも長く通うというデメリットもありますが。それと、卒研で行った研究テーマを深めたいとの思いがある、有明高専に残ることにしました。

松瀬 進路は松尾建設株式会社に就職します。動機は、高校のときから知っているところでしたし、他の会社案内を見てもなんかびんとこなくて、どうせなら昔から知っているところがといった感じでした。

氷室 学校に何か言いたいことがありますか。

上田 勉強の面では、もっと選択教科を増やしてほしかったです。自分で興味のある科目を選考できれば、勉学に対する取り組みも変わってくると思います。球技大会は、多少の雨でも外での競技をやってほしかったです。それまでに一生懸命練習してきたのに、雨天時の競技だとつらいです。

坂本 やっぱり授業内容ですかねえ。授業がおもしろい先生がいれば、当然おもしろくない先生もいますよね。できれば楽しく勉強をやりたいんですけど。とりあえずは、実用性についてみっちりと時間をとって説明してほしいなと感じますね。ただ、なあなあとやってもやる気が起きないと思うんですよ。できるものなら実技等も交えながらがいいですよね。資格試験のための講座をとり入れるっていうのもいいと思いま



中島朋子さん (5I)

す。もう一つ、授業評価は論述で！

中島 留学生に「日本の文化」を押し付けないでいただきたいですね。もちろん、日本に来たからには日本のやりかたで…ということは分かるのですが、あれをしなさい、これをしなさいと高校生に対するように扱わないでほしいそうです。

池田 毎朝、校門に高専のオールスターが立っておられるのは、学生にとってとても辛い出来事です。そこには村岡先生だけの方が効果的なのでは？

松瀬 寮のことですが、点呼というか門限の時間を何とかしてほしい!せめて4・5年生だけでも遅らせてほしいです。大学生が門限9時とか考えられないと思います。

氷室 後輩に伝えておきたいことがありますか。

上田 勉強の面では、他人より何か秀でたものを身につけてください。これだけは他の人に負けないというものは社会に出て強みになります。そのためには低学年での基礎勉強を怠らないこと。また、早くやりたいことを見つけることが重要です。生活面では時間は必ず守る、あいさつを行うなどはできて当然のことなので、これからも続けてください。後、何に対してもあきらめない熱い男になってください。

坂本 自分の専門についてもっと考えてほしいですね。まずは専門を好きになることが大事だと思うんですよ。知らないから嫌いじゃあんまりですからね。僕は電気工学科ですが、電気ってすごいと思いますよ、目に見えないものに対するいろいろ考えてるわけですからね。

中島 そうですね、もし、自分のクラスに留学生がやって来たら、どんどんいろんな話をしてほしいということですかね。自分と同年代の外国人の方と話す機会ってまずないですよね。

それが3年間も一緒に生活できるんです。この機会を逃してほしくないです。自分たちの文化や当たり前だと思っていたこと、疑問にすら思わなかったことを考えるきっかけになると思います。

池田 あと、2年間はここでお世話になるのでよろしくお願ひします。

松瀬 体育祭や高専祭であれだけ熱くなれるのはいいことだと思います。自分が言うのもなんだけど、そういう伝統は大事にしてください。JABEEに負けるな!

氷室 本日はたいへん貴重な話を聴かせていただき、ありがとうございました。みなさんは誇りある有明高専の卒業生です。これから健闘を祈ります。



松瀬浩志君 (5A)



上田茂樹君 (5M)



専 ポスター

1月15日(水)・16日(木)、本校合同教育別研究発表会が開催されました。

この発表会は、研究の成果を広く紹介し、参加できるようポスターの展示形式で行なわれました。

- 会期 平成15年1月15日・16日
- 展示時間 9時00分～
- 説明時間 12時40分～
- 会場 16時10分～
有明高専



文科セッション

南棟1階講義室において、第1回専攻科特
レッショングで一般公開され、気軽に
つれました。

月15日(水)・16日(木)

7時00分

13時10分

16時50分

合同教育南棟 合同講義室



発表題目

題名

発表者名

生産情報システム工学専攻

JAVAによる機械動作シミュレーションについての研究	尾道 健一
スタッカクレーンモデルの位置決め制御	狩野 佑介
教育用電熱実験システムの開発	久保山正朗
旋回型クレーン振れ止め制御実験系の構築と制御実験	原田 博士
二相偏心二重管熱サイフォン内の流動に及ぼす偏心量の影響	蓑田 智史
電圧共振形AC-DCコンバータの特性	上野 大輔
味覚センサを用いたアミノ酸の複合味の測定	坂口 天志
パレスパワーを用いた排ガス処理	手嶋 一志
酸化物半導体光触媒に関する研究	中野 佑紀
味覚センサを用いたアミノ酸の味質の測定	八浪 拓也
PEA法による誘電材料の空間電荷計測	加藤 聰
フォトニックネットワークにおける光パス配置に関する研究	古賀 大吾
負荷に基づいてリンクコストを設定する経路制御方式の性能評価	壇上 容康
熱拡散法によるCMOSデバイスの試作	塙本 直樹

応用物質工学専攻

二酸化マンガン固定化膜を用いた過酸化水素センサの性質	阪井 努
パラコッカス脱窒細菌を用いた水中の硝酸性窒素の除去	佐藤 光
<i>Caenorhabditis elegans</i> cDNA microarrayを用いた バイオアッセイ系による化学物質評価法の可能性	園田 理紗
ポリビニルアルコールイオン交換体によるタンパク質の分離	山田 佳代

建築学専攻

組合せ応力の相関性を考慮した降伏線理論による RC柱既往試験体の水平耐力の解析	久保田真次
次世代省エネ基準に基づく住宅性能評価と温熱環境に関する調査研究	高瀬 正次
プログラム荷重下におけるすみ内溶接継ぎ手の曲げ疲労き裂の発生・進展	畠 香織
地域公共図書館における開架フロアのゾーニング手法に関する研究	福澤 祥子
児童養護施設の建築計画に関する研究	村田 直高

冬季球技大会

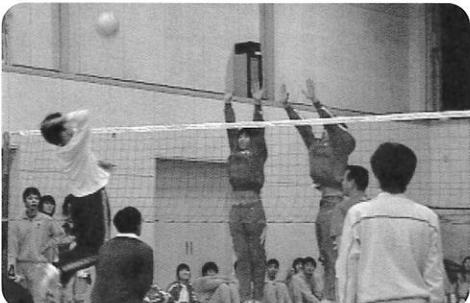
体育局長 4E 吉開 利通

今回の球技大会は雨天時の競技となった。サッカー、ハンドボールの練習をしているクラスが多かったので、運営する方にも本当に残念な一日となった。今回から新しくなった体育館を使用するようになったので、それが救いにはなったようだ。雨天時になったために、練習をしていたチームも他のチームもやる気がなくなっていたようだが、いざ競技が始まると楽しそうに、そして真剣にプレイしている姿が見えた。準々決勝、準決勝ぐらいになると応援の方にも力が入るようになってきて、球技大会としてもりあがつた。決勝は5年対4年のパターンが多く、キッチリ5年が勝利を収めていた。いい思い出として残ってくれるとうれしいです。女子バレーは1年対2年という低学年の対戦となり、1年が勝利を収めた。最近は低学年の活躍が見られるので次回も楽しみだ。準備をしてくれた1年寮生、片づけを手伝ってくれた1年生、審判をしてくれたクラブ員の方々、先生方、そして学生会役員、みなさん本当にありがとうございました。



総合優勝
電子情報工学科5年

競技名	優勝チーム
男子バスケットボール	電気工学科5年
男子バレー	機械工学科5年
女子バレー	建築学科1年
卓 球	電子情報工学科5年



九州地区ラグビー高専大会

5E 江口 嘉伸

去年の11月16日から高専大会ラグビーフットボール競技が開催されました。我々有明高専ラグビー部は、1回戦、大分高専と対戦し、27対0で勝つことができました。しかし、2回戦、久留米高専と対戦し27対5で惜敗してしまいました。ノーサイドの瞬間、これまでのことが走馬灯のように思い出され、涙があふれてきて止まりませんでした。僕たち5年にとってはこれが最後の試合となります。悔いが残らないと言ったら嘘になりますが、生涯忘れることができない経験となりました。後輩

達にはこの悔しさをバネに、全国を目指して頑張って欲しいと思います。これからもラグビー部の応援をよろしくお願いします。



クラフ紹介



ハンドボール部

3C 山田麻衣

こんにちは、ハンドボール部です。

私たちハンドボール部はプレイヤー18名、マネージャー3名で毎日活動しています。みなさんは“ハンドボール”という競技を知っていますか？“ハンドボール”とは、コートプレイヤー6名とゴールキーパー1名からなる7名で編成された2チームが縦20m、横40mのコート内で、手でボールを操ってゴールにシュートするという競技です。サッカーとバスケットをミックスしたような感じと言えば分かりやすいと思います。ハンドボールはバスケットやサッカー、バレーボールなどと違い知名度が低いため部員のほとんどが初心者で、誰でもがんばればレギュラーを狙える、やる気のある人にはもってこいの部活です。

今年の部の目標はズバリ全国大会出場です。九州はハンドボールの強豪校が多いため去年は惜しくも3位という結果に終わり、全国大会出場はで



きませんでした。しかし、今年は去年5年生がいなかったため去年と同じメンバーで戦うことができるし、春になったら合宿を行い個人個人のレベルアップとチームプレーの上達に力を入れていきます。今年はどんなチームにも負けないチームワークを生かして全国大会を目標に頑張っていきたいと思います。みなさん、応援よろしくお願いします。

英語研究部

5A 西川美耶

こんにちは、英語研究部です。英語研究部は現在部員6名で活動しています。主な活動内容は、毎年7月に行われる九州地区国立高専英語弁論大会に向けて、5・6・7月の3ヶ月間にミーティングや練習を行っています。この大会は、各学校代表3名がレシテーションの部とスピーチの部に出場し、一人一人が発表するものです。発表するにあたって、レシテーションの課題文は、登場人物の感情を理解したり、表現したりするところがとても難しかったのですが、顧問の徳田先生のご指導により上達することができました。またスピーチの原稿は、自分の考えを英語で表現していくことにとっても苦労しましたが、安部先生の添削やアン先生のイントネーション等のご指導により自分にプラスとなり、自信へとつなげることができました。



この大会を通じて、自分の考えを英語で伝えることができたときの嬉しさと難しさを実感することができました。これらは、本当に貴重な体験となりました。日頃からとても明るく楽しい部なので、部活以外のことでも話せます。少しでも英語に興味のある人はぜひ入部して下さい。よろしくお願いします。

留学生送別会

留学生送別会が2月19日(水)に修己館で行われました。尾崎校長先生のあいさつのあと、在校留学生代表のフンさん(4I)が惜別の言葉を述べ、引き続き卒業予定のジェイ君(5E)、タンさん(5I)、リラさん(5C)より卒業のスピーチをいただきました。初めのうちは生活習慣の違いに戸惑ったこと、言葉のことで苦労したこと、仲良く接してくれたクラスメートのことなど、お礼と感謝の気持ちがひ



しひしと伝わるスピーチをいただきました。また、チューター代表の獅子原さん(4I)のあいさつ、物質工学科吉武先生の指導教官代表あいさつ、吹奏楽部による演奏、田嶋学生会長からの贈る言葉、坂口先生(日本語講師)からの励ましのメッセージなどがありました。有明高専を巣立つ3名の留学生のより一層の活躍を祈念いたします。

(教務主事補 南 明宏)



寮生送別会

岱明寮では、卒寮を祝って去る2月8日(土)に恒例の送別行事がありました。本年度の卒寮生は留学生、編入生も含めて27名で、今回初の専攻科一期生狩野君を送りだすことができました。寮母さんや女子学生たちが前の晩から準備したもち米が、銀杏棟補食室で蒸し上がると、午後1時過ぎから卒寮生による岱明寮伝統の石臼によるもちつきが始まりました。当日は朝からあいにくの雨模様、銀杏棟のひさしの下にうすを据え付け、下級生も手伝って、あっという間に紅白のもちがつき上がりました。早速つきたてのもちをせんざい

や黄な粉もちにして、卒寮生より順に食べ、昼間の部は終了。夕方からは、多数の教職員の方々をご招待して、寮食堂で予餞会が行われました。校長先生のあいさつに始まり、若葉棟、青葉棟、桜棟の余興、卒寮生によるスピーチを交えて進行し、最後に本宮寮長からの送辞、今村前寮長からの答辭のあと、卒寮生へ記念品が贈られ、万歳三唱をもって予餞会の幕を閉じました。

卒寮、おめでとうございます。卒寮生の皆様の今後のご健康とご活躍をお祈りします。

(寮務主事 永守 知見)



英検・工業英検・漢検 合格者

平成14年度 第2回英語検定試験

準2級	1 I	乗松 隆由	1 I	前川 大輔	2-1	川原 智史	2-1	福吉 泰樹	2-3	青山 晃士
	2-3	上原 亮	2-3	中原 美紀	2-3	長野 友彦	2-3	宮辺 純	2-4	亀丸 翼
	2-4	栗林 稔明	2-4	堺 研一郎	2-4	塙崎秀二郎	2-4	山口 雅史	2-4	山下 聖正
	2-5	阿津坂 隆	2-5	古賀 優	2-5	古賀裕太郎	2-5	田中 陸義	2-5	塚本 頌太
	2-5	永松 碧	2-5	芳村 彩香	3 M	上原 倫紀	3 M	北原 裕史	3 M	塚本 健
	3 M	野田 晃助	3 M	松本慎一郎	3 E	小合瀬弘樹	3 E	梶原 啓治	3 E	北園 優希
	3 E	中村 祐	3 E	平川 啓介	3 C	平尾 元	4 C	森 望美		

平成14年度 第2回工業英語検定試験

3級	2-5	中村 仁美	3 I	石橋 太郎	3 I	中川 裕史				
	4級	1 M	浦島 真人	1 E	廣瀬裕二郎	1 I	西原 望	1 A	大坪 史人	3 M
	1 M	尾辻 靖貴	1 E	福永 洋平	1 I	野田 祐輝	1 A	緒方 慎吾	3 M	立山 正宗
	1 M	鎌田 貴翔	1 E	藤木 寛士	1 I	野中 向洋	1 A	加藤 亮	3 E	生野 隆三
	1 M	古賀 義行	1 E	古庄啓太郎	1 I	乗富聰一郎	1 A	神尾 沙和	3 E	藤江 周作
	1 M	篠崎 絵美	1 E	吉田 正貴	1 I	平川 信一	1 A	草場 紀法	3 E	松下 和則
	1 M	松本 義貴	1 I	芦馬 廉美	1 I	古川勇志郎	1 A	黒木 理恵	3 E	森田佐和子
	1 M	宮本 兼次	1 I	井上 智文	1 I	前田 勇士	1 A	古賀絵里菜	3 I	荒木 聰史
	1 M	吉田 貴志	1 I	井元 美衣	1 I	溝口 佳世	1 A	坂本 夕子	3 I	井形 史朗
	1 E	秋山 研二	1 I	植村 由理	1 I	山下 裕司	1 A	千光士あや	3 I	伊藤 周作
	1 E	井形 亮	1 I	大津たまみ	1 I	余語 隆彦	1 A	鶴田 陽生	3 I	稻田 航
	1 E	池田 峻	1 I	大渕 喜子	1 C	苅屋真由子	1 A	中村 陽子	3 I	江崎 剛
	1 E	池田 隆宏	1 I	角口 文隆	1 C	坂口 陶子	1 A	中山 理紗	3 I	江崎 恵
	1 E	岩橋 幸司	1 I	榎島誠一郎	1 C	杉野 尚子	1 A	成富 仁史	3 I	折小野 聖
	1 E	浦田 大輔	1 I	川宿田意大	1 C	豊福 航平	1 A	野上 紗子	3 I	北村 匡浩
	1 E	江崎 春一	1 I	古賀 武司	1 C	中島みさお	1 A	春田 親輝	3 I	釘野 貴史
	1 E	吉瀬 大智	1 I	古賀 翼	1 C	藤山 貴士	1 A	松藤 浩史	3 I	柴尾 武志
	1 E	隈部 恭平	1 I	佐々木陽光	1 C	本田 里奈	1 A	松藤 稔	3 I	田頭 保彦
	1 E	古城 大	1 I	佐藤 稔	1 C	松尾なつみ	1 A	宮崎 進	3 I	藤井 恵太
	1 E	只隈 祐貴	1 I	志垣祥太郎	1 C	的場 仁志	1 A	安田 有希	3 I	前田 幸
	1 E	田中 康平	1 I	高田 有里	1 C	壬生 雄大	1 A	山鹿ひろみ	3 I	村田 京介
	1 E	津留 征幸	1 I	田中 義宗	1 C	諸藤 香里	1 A	山口 春菜	3 I	村野 智志
	1 E	新田 一樹	1 I	津崎 英里	1 A	荒木 剛	2-2	熊川小百合	3 I	森 一樹
	1 E	野見山勝也	1 I	辻 翔吾	1 A	有富 慎也	3 M	荒巻 篤良	3 C	小宮 正登
	1 E	氷室 貴大	1 I	堤 理加	1 A	上杉 名央	3 M	内田 哲雄	3 A	西郷 陽一
	1 E	平川慎太郎	1 I	西田 智	1 A	浦田 美記	3 M	柿坂 悠太	3 A	田上 裕士

平成14年度 第2回漢字能力検定試験

2級	1 A	神尾 沙和	2-3	池島 直貴	3 M	鐘ヶ江亮輔	3 C	嶋田 明香		
	1 E	浦田 大輔	1 C	上津原 光	1 C	苅屋真由子	1 C	高木 陽一	1 C	立山貴美恵
準2級	1 C	豊福 航平	1 C	渡邊 千華	2-2	熊川小百合	2-3	境 健司	2-3	長野 友彦
	2-4	林 志穂	2-4	堀 浩士	2-5	有吉 利礼	2-5	山村 太士	2-5	芳村 彩香
	3 C	塚本 文	3 C	松本 有希	4 C	徳田 早苗	4 C	平野 陽子		
	1 M	浦島 真人	1 E	池田 峻	1 C	荒木 美英	1 C	河野 敦美	1 C	坂口 陶子
3級	1 C	嶋村 豊	1 C	的場 仁志	1 C	森 陽美	1 C	諸藤 香里	1 A	近藤 志穂
	1 A	坂本 夕子								

岱明寮だより

寮長あいさつ

物質工学科 4年

本宮 竜介



こんにちは。寮長になった4Cの本宮竜介です。このすばらしい岱明寮の寮長になることができ嬉しく、そして無事1年間やり遂げることができるかどうか心配です。

岱明寮のよいところといえば…言い出すとキリがありません。また悪いところも、多少はあると思います。しかし、全寮生が力を合わせれば、問題はないと思います。これから、岱明寮はこれまでと違った新しい寮になると思います。年の差を超え、男女を超えて成長していく寮になっていくと…いや、なると確信しています。どんなことが起こっても、これまでの経験と、新しいチャレンジ精神で乗り切っていきます。

多くの教職員の皆様、また全通学生の方々、これからいろいろな困難が待ち受けているであろう岱明寮に、どうぞお力添えくださいますようよろしくお願いします。



寮生球技大会

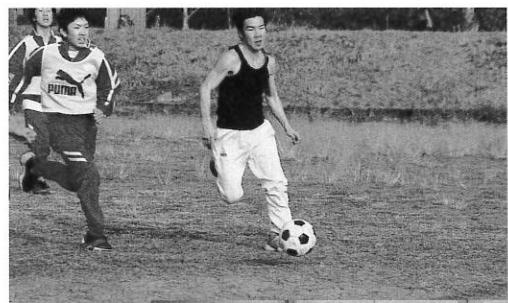
物質工学科 3年

金子 創太



2003年1月18日、本校グランドにおいて、寮生による冬季寮生球技大会が行われました。この大会は、各棟の名誉と威信、そして誇りをかけ、毎年激しい大会が行われています。今年は前夜の雨で、グラウンド状態も悪かったのですが男子は外でサッカーを、女子は体育館でビーチボールバレーを行いました。例年ない高いレベルのサッカーの試合に寮生の団結力を、力強いビーチボールバレーの試合に女子の強さを感じました。

これからも、寮生会と全寮生の力を合わせよりよいものにしていきたいと思います。



寮生会役員

平成14年11月25日現在

寮長 4C 本宮 竜介
副寮長 3E 荻屋 浩司
副寮長 4E 橋本 知栄
総務書記 4E 陣内 孝章
涉外 3M 小川 正治

局名	局長	副局長	棟長	指導寮生
会計	3E 荻屋 浩司	2E 江崎 圭佑	銀杏棟長 5A 松瀬 浩志	4E 吉開 利通
風紀	4M 小堀 聖	3C 古川 信也	紅葉棟長 3M 中村 剛士	4E 吉田 達紀
整備	4E 吉田 達紀	1C 川崎 栄一	青葉棟長 2M 救仁郷 良	4I 田中 健太
体育	3C 金子 創太	2M 荒牧 玄修	若葉棟長 4I 田中 健太	4C 廣橋 悠平
厚生	3I 阿波 卓弥	3E 梶原 啓治	桜棟長 4E 橋本 知栄	
報道	2I 松永 剛幸	1E 高田 俊輔	桜副棟長 3A 山口 佳	
写真	4E 山崎 進一	1C 的場 仁志	3I 野崎 紗	
照明	3E 井手 秀一	3M 三浦 俊亮		
娛樂	2A 有吉 利礼	2I 西 俊哉		

※男子棟長・指導寮生(若葉)は15年3月まで

新学生会

学生会長あいさつ

4M 田嶋大輔



みなさん初めまして。新学生会長の田嶋です。伝統ある有明高専の会長になることができ嬉しく思っています。私自身学生会活動に従事するのはこれが初めてのため、多少戸惑いもありますが、一歩一歩着実に前進していき、一年経ったときに「今年の学生会は良かった」と思ってもらえるように頑張りたいと思います。

さて、新学生会は冬季球技大会より既に活動を開始しています。今年は私を含め、半数近くを新人が占めています。新人が多いということはそれだけ活動が大変になることを意味するかもしれません、やる気のあるメンバーが揃っており、新鮮さと経験を兼ね備えた役員になってもらうため一日でも早く仕事内容を理解してもらい、先につな

がればと思っています。また、今年からはJABEE対応に向けて大きな改革がなされようとしています。学生には更なるレベル向上が期待されます。そのため学校生活が窮屈になることが予想され、高専生らしい自由かつ想像力豊かな発想が拘束されてしまうのではないかと心配しています。そこで学生会では学生一人一人の能力を発揮できる場を提供できればと考えています。今年は体育祭の年でもあるので十分はじけてください。

最後に、この場を借りて新学生会を承認していただいたことに対し、みなさんに感謝の意を表したいと思います。みなさんの期待に添えるよう一生懸命頑張りますので、これから一年間よろしくお願いします。



平成15年度 学生会役員名簿

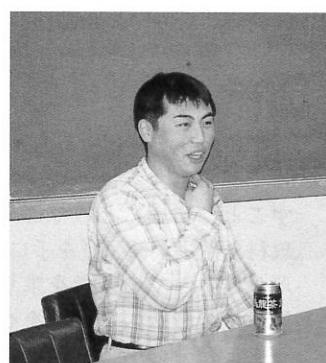
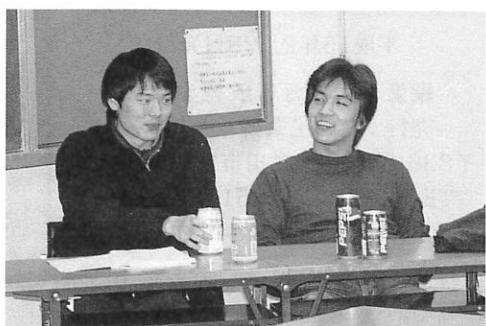
会長	4 M	田嶋 大輔	4 M	江口 剛
副会長	4 A	熊谷 亮	3 M	三浦 俊亮
体育局	4 E	吉開 利通	1 M	陶山 俊介
	2-4	成清 可奈	4 C	那須 文美
放送局	4 C	末安加代子	2-4	松本 悠希
	3 A	花田由香里	4 C	西 彰敏
文化局	4 C	平 有加利	2-5	森 裕生
	3 C	堤 奈緒子	1 A	榮 寛子
	2-5	永松 碧		

風紀局	4 C	徳田 早苗	4 E	行里 武英
	3 M	山川 達矢	1 I	佐々木陽光
会計局	3 A	山口 佳	2-5	田中あゆみ
	1 M	佐藤 剛		
涉外	4 C	平野 陽子	3 M	安谷 泰介
	2-1	中島 梨江		
報道局	3 C	杉野 洋子	3 C	境 舞
	3 M	井口 祐介	2-4	伊津野大志
整備局	1 C	荒木 美英		
	3 M	鶴田 弘之	4 I	田中 健太
	2-4	鳥巣 友希		

体育系 クラブリーダー研修会

平成15年1月24日(金)・25日(土)に福岡県立社会教育総合センターにおいて体育系クラブ指導者研修会が行われました。各クラブの指導的立場にある学生30名と19名の顧問教官が参加しました。初日の全体会では本校卒業生である古園井洋治(剣道部、九州工業大学大学院)、笠原孝高(バスケットボール部、九州大学)、手嶋一志(バレーボール部、本校専攻科)の3名を講師に迎え、研修を行いました。3名の卒業生は現役

選手時代の経験に基づいて、リーダーとしての心構え、果たすべき役割などについて講演されました。2日目の分科会では学生は3グループに分かれ「クラブ運営と競技力向上について」というテーマで討論を行い、その後の全体会でまとめを行いました。後半のレクリエーションでは8チームに分れビーチボールバレーを行い、バスケットボール部・陸上競技部チームが優勝しました。短い時間でしたが内容の濃い研修会でした。



建築設計競技

6年連続で団体賞受賞

(社)福岡県建築士事務所協会主催の平成14年度建築設計競技で今年も本校から多数の学生が入賞しました。今年の課題は、高等学校の部が「コーポラティブハウジング」、専門学校の部が「歴史民族ミュージアム(埋蔵文化財)」でした。高校生の部には県内から54作品の応募があり、3Aの溝上敦子さんが会長賞、福田雄大君が金賞、中尾麻美さんが銅賞を獲得しました。その他、



▲ 3A 福田 雄大君の作品



▲ 4A 井村 征洋君の作品



▲ 3A 溝上 敦子さんの作品

佳作に3名、協会賞に4名、計10名が入賞し、優秀学校賞の団体賞を受けることができました。専門学校の部には県内から129作品の応募があり、4Aの井村征洋君が金賞、高柳七子さんが銅賞を獲得し、佳作に1名(5A)、協会賞に2名(4A)、1名(5A)が入りました。例年よりも良い成績を収めることができました。

定期演奏会を終えて

第34回定期演奏会実行委員長 野崎 綾(3I)

私達吹奏楽部は、去る12月22日に大牟田文化会館で第34回定期演奏会を開催しました。例年より一月早い開催等、不安材料の多い今回の演奏会でしたが、先生方や事務の方、OB・OGの方々に支えられ、なんとか本番を迎えることができました。演奏会当日は寒い中、たくさんのお客さんが私達の演奏を聴きに来て下さいました。幕が上がり客席に人が見えた瞬間、私たち実行委員のこの一年の苦労が報われていくのを感じました。この演奏会を通して得られた多くのことは、これからもずっと私の心の中に残っていくことでしょう。



編集後記

学校として一番うれしく、また、さびしさも感じる3月がめぐってきました。立派に成長した5年生および専攻科生を送り出すことは学校にとってこの上ない喜びです。特に、今年度は専攻科1期生が修了証を手に本校を築立つ記念の年となりました。草分けとしての苦労を乗り越えての修了おめでとう。卒業生・修了生の今後のご活躍を心からお祈りいたします。門出にあたって、自分の努力に対し誇りを持つと同時に、支援して頂いたご両親、喜びや悲しみを分かち合った友達・後輩、そして教職員への感謝の気持ちも大切にして下さい。在校生の皆さん、先輩が築いた伝統をさらに発展させるために努力しましょう。

有明高専だより 第109号

平成15年2月28日発行

編集：有明高専広報委員会
発行：有明工業高等専門学校
〒836-8585 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-8861 (学生課)
<http://www.ariake-net.ac.jp/>